

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月23日作成)

小委員会名	ヒューマンファクターデザイン建築評価法小委員会	主査名：鵜飼 真成 就任年月：2022年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)	委員長名：大岡 龍三 主査名：田中 英紀
設置期間	2022年4月 ～ 2025年3月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	ヒューマンファクターデザインの効果、実用的な制御法を検証しながら、より実践的に利用価値を高める建築評価法を整備していく 初年度：事例、評価法などの情報収集 2年度：評価法についての基準・運用手法の素案を作成 3年度：評価法のガイドを作成、シンポジウムなどで成果発表	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 主査：鵜飼真成(早稲田大学) 幹事：近本智行(立命館大学) 委員：秋元孝之(芝浦工業大学)、大黒雅之(大成建設)、大宮由紀夫(竹中工務店)、小林弘造(日建設計)、佐々木真人(日本設計)、間瀬亮平(大林組)、田辺新一(早稲田大学)、野部達夫(工学院大学)、西野淳(ダイキン工業)、三浦克弘(鹿島建設)、村上宏次(清水建設)、横山計三(工学院大学)、中野淳太(法政大学)	
設置WG (WG名：目的)		
2023年度予算	120,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：

項目	自己評価
委員会開催数	5回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 事例、評価法などの情報収集を実施した。 2. 評価アンケートの内容に関する素案を作成した。
委員会活動の問題点・課題	なし

*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当小委員会では、2年度（中間年度）として以下の活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会の活動方針の確認、活動内容の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・小委員会としての活動方針を確認し、年度毎の委員会活動内容を検討した。 ・小委員会の成果として、3年度（最終年度）にヒューマンファクターデザイン建築評価アンケートを実施。分析した結果を対外的に発表してゆくことを確認。 ・大会にて OS「建築環境のヒューマンファクターデザインと評価」を開催 2. ヒューマンファクターに関する情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ・委員からの提供された以下の情報を議論した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) Personal comfort models (2) 実オフィスにおける生理量変動を考慮した積極的快適性 (3) マズローの「必要性の階層」とオフィスに関する考察 3. テキストマイニングを用いたヒューマンファクターの分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンファクターに関するキーワードとしては、①行動関連語：受容、適応、選択、行動、クレーム、②心理関連用語：快適、満足、③指標に関する語：温熱、健康、知的生産性、④ヒューマンファクターの基本的機能：自己効力感、行動変容、順応、刺激が抽出された。 4. ヒューマンファクターデザイン評価アンケートの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・「計画・設計者向け」のアンケートと、「居住者向け」のアンケートをそれぞれ用意する方針を定めた。 ・テキストマイニングを用いたヒューマンファクターの分析から得られたキーワードを基に、ヒューマンファクターデザイン建築レベル調査用紙（計画・設計者向け）を作成。 ・マズローの欲求階層を参考に、オフィスの品質到達レベル調査用紙を作成。 5. 見学会 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンファクター建築として、以下の事例を視察した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本設計新本社 (2) 日建設計コレクティブフロア (3) 高砂熱学イノベーションセンター

●総合評価は4段階（A>B>C>D）にて、自己評価すること。

●中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度

C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度

D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

●小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

●提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」（1年目・3年目不要）

設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」（1年目不要）

設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」

設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」